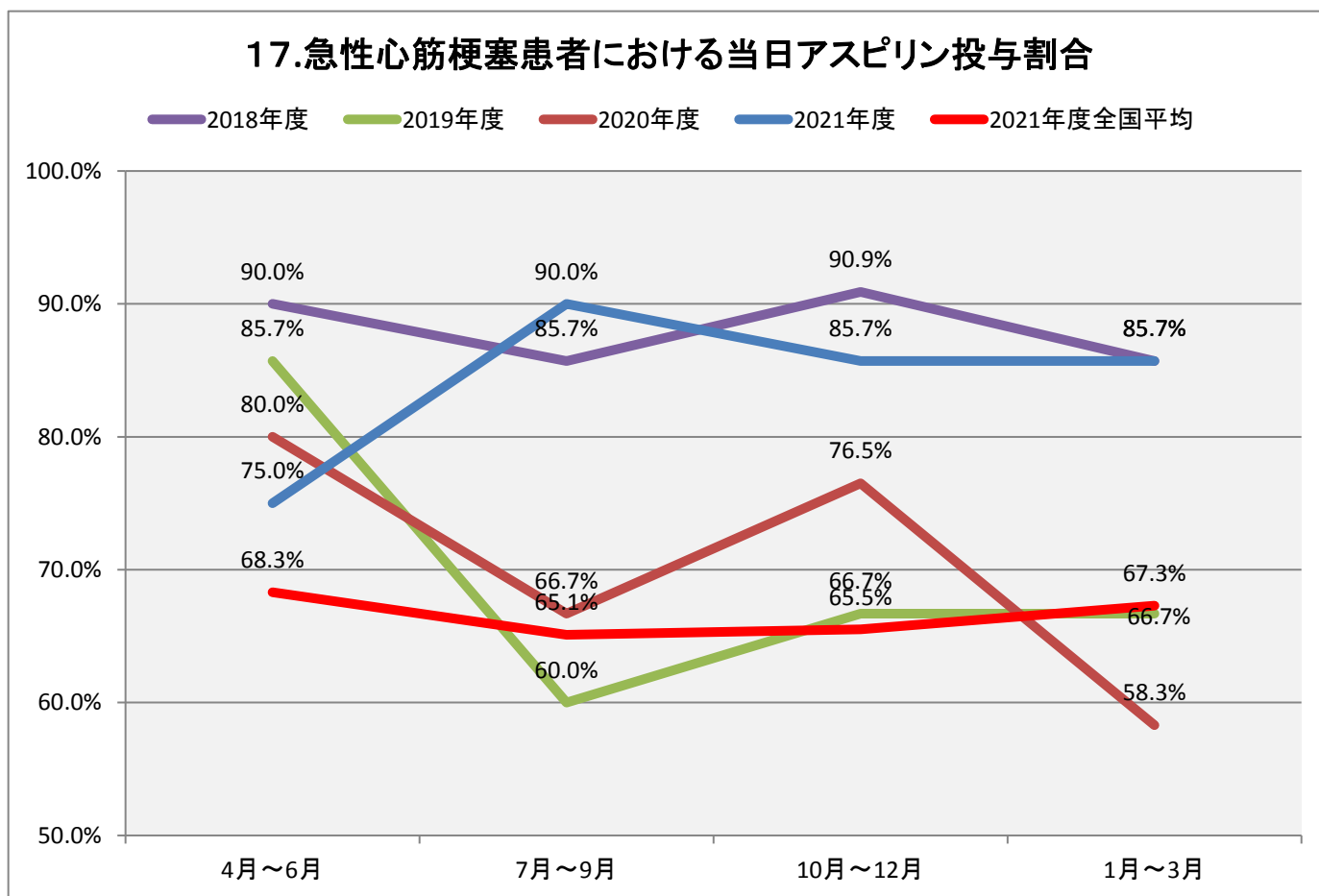


17.急性心筋梗塞患者における当日アスピリン投与割合

(1)調査結果



調査期間	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
2021年度	75.0%	90.0%	85.7%	85.7%
2020年度	80.0%	66.7%	76.5%	58.3%
2019年度	85.7%	60.0%	66.7%	66.7%
2018年度	90.0%	85.7%	90.9%	85.7%
2021年度全国平均	68.3%	65.1%	65.5%	67.3%

※2018年度は入院後2日以内の投与率

(2) 指標の説明

急性心筋梗塞において、血小板による血管閉塞および心筋との需要供給関係の破綻、心筋のリモデリングが問題であり、抗血小板薬およびβ-遮断薬の投与が推奨されています(日本循環器学会ガイドライン)。急性期におけるアスピリンおよびβ-遮断薬の処方、心筋梗塞量の減少やイベント抑制にかかわっています。

2018年度までは「入院時早期アスピリン投与」として入院後2日以内を分子としていましたが、過去の指標において、急性心筋梗塞症例に対するアスピリン投与割合は、多くの病院で高いことが分かっており、ガイドラインでの投与は、入院後早期(10分以内)を推奨しており、2019年度からは早期投与として当日の投与の有無を計測しています。

(3) 定義

分子: 分母のうち、入院後当日にアスピリンもしくはクロピドグレルが投与された患者数
 分母: 急性心筋梗塞で入院した患者数